

# 「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 第3回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の第3回推進会議を、平成24年12月18日（火）に開催しました。

第3回推進会議には、6名の委員のうち4名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

なお、第3回推進会議の概要は、以下のとおりです。

## 「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

伊藤 亜衣美（三重バイオレットアイリス  
選手 ハンドボール）

※伊藤委員はご欠席

北畑 亨（熊野市観光スポーツ交流課  
スポーツ交流係長）

※北畑委員はご欠席

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ  
クラブ理事長）

辻 正敏（株式会社辻工務店取締役社長）

堀越 英範（三重県高等学校体育連盟理事長）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会  
専門委員会 委員長）

ファシリテーター

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部  
教授）

## <推進会議の進行概要>

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 15:05

- ・スポーツ推進局長あいさつ
- ・本年度の取組の進捗状況の説明

プロジェクト推進についての意見交換

次の4つのテーマに基づく意見交換。

- ・県民への「みえのスポーツ」のPR
- ・スポーツを通じた地域の活性化に向けた課題
- ・ジュニア競技者育成に向けた課題
- ・障がい者スポーツの推進における課題

今後のスケジュール

閉会 17:25

（スポーツ推進局長あいさつ、県事業の説明）

冒頭、山口千代己スポーツ推進局長から、12月16日に開催した女子レスリング吉田沙保里選手の国民栄誉賞受賞県民報告会についてご報告しました。

また、「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」のプロジェクトを構成する2つの実践取組における本年度の取組の進捗状況について、事務局職員から説明しました。



※2つの実践取組

- ①「スポーツによる地域の活性化」
- ②「スポーツを支える人づくり」

## (プロジェクト推進についての意見交換)

続いて、杉田教授の司会により、プロジェクトの推進に向けて、次の4つのテーマに基づき意見交換を行いました。

- 県民への「みえのスポーツ」のPR
- スポーツを通じた地域の活性化に向けた課題
- ジュニア競技者育成に向けた課題
- 障がい者スポーツの推進における課題

各委員からは、日頃の活動の中で感じる課題をふまえた意見や提案をいただくなど、活発な意見交換が行われました。

### 委員からの主な意見

県民への「みえのスポーツ」のPR

- ・スポーツといえばアスリートのものでレベルの高いところがクローズアップされ、企業、事業所がスポーツに取り組む壁が高くなっている。健康管理という観点でとらえ、ウォーキングなど簡単なことから始める取組を商工会議所会員の中で検討している。

- ・ママさんバレーがテレビで放映される機会が多く、そのテレビに自分が映ることを夢見てスポーツを続けているという声を聞く。他のスポーツももっとテレビで取り上げてもらおうことが、継続してスポーツに取り組む一助となる。また、普及の面でも効果があり「知る」機会にもつながる。

- ・鈴鹿スポーツガーデンの存在は知られているのか。もっとPRすべきである。

スポーツを通じた地域の活性化に向けた課題

- ・財源確保に向けて、鈴鹿スポーツガーデンを活用してネーミングライツを導入してはどうか。ただし、地方都市の施設には大口はつかないし、全くつかない事例が見受けられる。

- ・テニス場など各施設に企業広告板をつける取組も考えられるが、企業はメリットがないと広告を出さないなので、そこをどう打ち出すかが課題だ。

- ・寄附を受けた個人名をプレートに刻み、施設内に掲示する取組があるが、寄附をしたくなるような魅力やインセンティブを付与していく必要がある。



ジュニア競技者育成に向けた課題

- ・学校現場ではスポーツは特殊なもので、スポーツをすることに壁を感じる子が多い。学校訪問などこちらが出向いてスポーツを体験させる必要がある。

- ・中学と高校の運動部活動加入率をみると、中学でスポーツをやめてしまう子が多い。スポーツ種目の適性を決める時期が低年齢化しているうえ、種目を変えてスポーツを続ける子も少ない。ジュニアのときには一つのスポーツに特化せず、さまざまなスポーツを選べる環境が必要。

- ・ジュニアの発掘育成には優秀な指導者が欠かせない。東京の中学校の事例のように部活動を外部に委託することや、学校と学校が連携して部活動に取り組む手法などを考えないといけない。

- ・競技人口が少なくても優秀な指導者がいれば、好成績を出せる種目はあるので、三重県としてどう戦略をたてるかだ。

・目標を設定して1年ごとの到達地点をおき、その結果を評価する。その評価によって強化費を分配するしくみが大切。

障がい者スポーツの推進における課題

・障がい者スポーツの指導者については自らの経験がないと指導できないと考えていたが、全く違う競技の指導者が見て気づくこともあり、健常者の指導者に入ってもらうことも一つの案である。

・未普及の障がい者スポーツについては、まず指導者の確保が大切。身体・メンタルの面と競技力の面で理解のある指導者が求められる。

など



#### 次回（第4回）の開催予定

次回（第4回）推進会議は、本年度の取組の進捗状況と翌年度の具体的な取組に向けた意見交換を行うため、平成25年2月に公開で開催する予定です。